

2017 年度事業報告書 附属明細書

附属明細書 1 会員一覧

附属明細書 2 主催セミナーに関する事項

附属明細書 3 留学生会館入居状況

附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

会員一覧

2018年3月31日現在

No.	協力会員名称	No.	協力会員名称
1	埼玉大学	26	東京工科大学
2	千葉大学	27	東京都市大学
3	東京工業大学	28	東洋大学
4	東京外国語大学	29	日本女子大学
5	東京学芸大学	30	法政大学
6	東京農工大学	31	明星大学
7	お茶の水女子大学	32	立教大学
8	電気通信大学	33	立正大学
9	一橋大学	34	早稲田大学
10	国際教養大学	35	東洋英和女学院大学
11	首都大学東京	No.	準協力会員名称
12	青山学院大学	36	東京工業高等専門学校
13	桜美林大学	37	白梅学園短期大学
14	大妻女子大学	No.	賛助会員名称
15	慶應義塾大学	38	(株)幼体連スポーツクラブ
16	工学院大学	39	(株)スリーボンド
17	国際基督教大学	40	安藤物産(株)
18	駒澤大学	41	多摩信用金庫
19	芝浦工業大学	42	大成建設(株)
20	順天堂大学	43	(株)西東京アイビー化粧品
21	上智大学	44	公益財団法人日本自然保護協会
22	創価大学	45	相羽建設(株)
23	中央大学	46	(株)エム・ジー・ケイ
24	帝京大学	47	第一屋製パン(株)
25	東京経済大学	48	

事業名	第2回吉笑ゼミ。												
期日	9月2日(土)												
主題	知る喜び、知られる喜び。												
対象	高校生、大学生、社会人												
趣旨	<p>前年度は開館50周年記念事業の一つとして第1回が開催され、好評を博したことから、29年度も開催することとなったセミナーである。開館以来、公益財団法人大学セミナーハウスが取り組み続けてきた教育活動の一環として開催する。大学入学を目前にした高校生や、学部の初年次生に向け、学ぶこと、考えることの楽しさや視点の多様性を体感してもらうために、落語家・立川吉笑とゲスト講師(さまざまな専門分野を持つ研究者等、その道のスペシャリスト)による講義形式ではない新しい形のセミナーを、学びの源である大学を会場に開催することとした。まず、ゲスト講師に60分程度専門分野の講義をしていただき、その講義で学んだことをその場で、立川吉笑にレポート提出よろしく落語として提出(披露)していただく。その後、講師と吉笑のトークや参加者との質疑応答でしめくくる。</p> <p>今回は、『数学する身体』(新潮社)で第15回小林秀雄賞を受賞した数学の独立研究者・森田真生氏を講師に招き、「数のメカニズム」を講義テーマに東京大学「福武ラーニングシアター(福武ホール)」で開催され、講義、落語レポートともに知的で満足度の高いセミナーが実現した。</p>												
講師	立川吉笑(立川流落語家) 森田真生(独立研究者)												
定員	180名												
参加者	102名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果の満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという満足</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	62%	どちらかという満足	27%	無回答	11%	どちらかという不満	0%	不満	0%
満足度	割合												
満足	62%												
どちらかという満足	27%												
無回答	11%												
どちらかという不満	0%												
不満	0%												

事業名	憲法を学問するⅡ												
期日	11月11日(土)～12日(日)												
主題	憲法を学問するⅡ												
対象	大学生、社会人												
趣旨	<p>前年度は、一般の市民や学生が、研究者と直接に交流し、ともに学び考える合宿が企画され、幸いにして好評を博することができた。そして、続編を期待する多くの参加者の声に背中を押される形で、本年度は読書の秋に、第2回を開催した。</p> <p>講師には、戦後憲法学のレジェンド・樋口陽一教授をはじめとして、各世代を代表する憲法研究者たちが揃った。前回は憲法を理論的に考察することに力をいれ、それを現実の社会に即して掘り下げたので、今回は実際に事件となった「判例」を検討の素材とした。「憲法判例を読むこと」をめぐる樋口陽一／蟻川恒正の師弟対論に加えて、4つの分科会における講義・討論や参加者の報告を交えた、盛りだくさんの内容であった。各講師が分科会でとりあげる判例や主題の選択に際して、すでにまとまった研究を発表している分野をあえて避けるよう、申し合わせをした。かねて関心をもってきたものの、これまであまり執筆してこなかった分野について、参加者ととも新鮮な気持ちで取り組んでみよう、というわけである。</p> <p>各分科会への参加は、残念ながら、抽選による割当ての形によらざるを得ない。けれども、機械的に割り振りを行った昨年の反省から、今年は第一希望を優先的に割り当てると、少しでも希望に近い分科会に参加できるよう工夫を加えた。もちろん、講堂での全体会において、他の分科会の講師・参加者とも交流する場が、昨年同様積極的に設けられたほか、分科会での議論を共有するために、各講師が自ら要旨を報告するパートが新設された。</p> <p>とかく政治的・党派的な文脈で扱われがちな憲法。これを「学問する」とはどういうことかを、大学生・大学院生のみならず一般市民にも門戸を開き、講師とともにじっくりと考える機会となった。</p>												
講師	樋口 陽一 (東京大学名誉教授・東北大学名誉教授) ** 石川 健治 (東京大学法学部教授) ** 蟻川 恒正 (日本大学大学院法務研究科教授) ** 木村 草太 (首都大学東京法学系教授) ** 宍戸 常寿 (東京大学法学部教授) **												
定員	80名												
参加者	47名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果 (満足度)</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と満足</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	87%	どちらかという と満足	8%	無回答	5%	どちらかという と不満	0%	不満	0%
満足度	割合												
満足	87%												
どちらかという と満足	8%												
無回答	5%												
どちらかという と不満	0%												
不満	0%												

**印は運営委員を兼ねた講師

事業名	第 35 回大学職員セミナー（日帰り）												
期日	7月14日（金）												
主題	大学職員の可能性を広げよう ——大学のグローバル化を牽引する職員を目指して（第1回）——												
対象	これからの大学を担う若手・中堅、また熱意ある職員（教員を含む）												
趣旨	<p>「グローバル化政策」をどのように構築するかが各大学に問われている。それには、キャンパスの中で学生に直に接している職員の役割が重要。また、海外での学生リクルート活動やプログラム開拓における職員の役割にも大きなものがある。</p> <p>立命館大学から宮下明大氏（立命館・東京キャンパス所長）を迎え、立命館大学および立命館アジア太平洋大学が取り組んできたグローバル化戦略と、そこで果たす職員の役割について講演していただいた。</p> <p>立命館アジア太平洋大学は、近年強力な方針のもとでアジアからの留学生を急増させるとともに、海外大学とのダブルディグリープログラムなど、教育プログラムの開設を積極的に進めていることで注目されている大学であるため、海外学生の受け入れに関する戦略を中心に講演していただいた。講演に引き続き、各大学の悩みを少しでも解消する場として、簡単なディスカッションをワールドカフェ方式で行い、活発な討論が行われた。</p>												
講師・企画委員	宮下明大氏（立命館・東京キャンパス所長） 近藤清之（法政大学常務理事）＊ 青木加奈子（高崎経済大学研究グループ研究支援チーム）＊ 岩崎宏政（明治大学社会連携事務室事務長）＊ 大久保陽造（中央大学入学センター入学企画課課長）＊ 山本 眞一（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）＊												
定員	120名												
参加者	38名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と満足</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	70%	どちらかという と満足	26%	不満	4%	どちらかという と不満	0%	不満	0%
満足度	割合												
満足	70%												
どちらかという と満足	26%												
不満	4%												
どちらかという と不満	0%												
不満	0%												

(注) ＊印は企画委員

事業名	第7回新任教員研修セミナー														
期日	9月4日(月)～6日(水)														
対象	国・公・私立大学等で授業を担当する新任教員														
趣旨	<p>大学入試改革と呼応して、高校や大学での学びに「生徒・学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング」の導入が求められている。</p> <p>本セミナーでは3日間のセミナーをとおり、参加者および講師との交流が行われるとともに、大学教育にふさわしいアクティブ・ラーニングのあり方を探求し、それぞれの教育実践につなげることができた。</p>														
講師・運営委員	佐藤順子 (SPA ファシリテータ) 有賀清一 (桜美林大学講師) 村山光子 (明星学苑法人本部企画部課長) 菊地滋夫 (明星大学教授) ** 荒木晶子 (桜美林大学教授) ** 江夏由樹 (一橋大学特任教授) ** 史 傑 (電気通信大学教授) **														
定員	40名														
参加者	32名														
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と満足</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという と不満</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	72%	どちらかという と満足	19%	どちらかという と不満	6%	無回答	3%	不満	0%	わからない	0%
満足度	割合														
満足	72%														
どちらかという と満足	19%														
どちらかという と不満	6%														
無回答	3%														
不満	0%														
わからない	0%														

(注) **印は運営委員を兼ねた講師

事業名	第6回EUセミナー										
期日	9月22日(金)～24日(日)										
主題	EUの連帯と統合の新段階 ーポピュリズム・移民・単一市場ー										
対象	大学生、社会人										
趣旨	昨年決定したBREXITがいよいよ交渉を開始した。今後この交渉をめぐる展開の中でEUはどのように揺れていくのであろうか。そこにはEUそのものの本質が浮き彫りにされよう。オランダとフランスではEU離脱派の勢力は押しとどめられたが、いずれの政権も安定しているとは言い難い。9月にはドイツで国民議会選挙が予定されている。このような岐路に立つEUの現在を、BREXITを切り口に、様々な角度からの議論が行われた。今回は2日目の特別講演の講師として、駐日EU大使であるヴィオレル・イスティチョア・ブドゥラをお招きすることができた。										
講師	<p>ヴィオレル・イスティチョア・ブドゥラ (駐日欧州連合代表部 駐日EU大使)</p> <p>太田 瑞希子 (亜細亜大学国際関係学部講師)</p> <p>押村 高 (青山学院大学副学長・国際政治経済学部教授)</p> <p>小久保 康之 (東洋英和女学院大学国際社会学部長・教授)</p> <p>武田 健 (東海大学政治経済学部講師)</p> <p>田中 素香 (中央大学経済研究所客員研究員・東北大学名誉教授)</p> <p>中西 優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授)</p> <p>蓮見 雄 (立教大学経済学部教授)</p> <p>福田 耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授)</p> <p>渡邊 啓貴 (Uセミナー企画委員長・東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)</p>										
定員	80名										
参加者	77名 (内講演会参加者6名)										
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <p>A pie chart titled 'セミナーの満足度' (Seminar Satisfaction) showing the following data: 62% (blue) for '満足' (Satisfied), 32% (green) for 'どちらかという満足' (Somewhat satisfied), 3% (orange) for '不満' (Dissatisfied), and 3% (yellow) for 'どちらかという不満' (Somewhat dissatisfied).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという満足</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという不満</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	62%	どちらかという満足	32%	不満	3%	どちらかという不満	3%
満足度	割合										
満足	62%										
どちらかという満足	32%										
不満	3%										
どちらかという不満	3%										

事業名	第 36 回大学職員セミナー												
期日	11 月 24 日（金）～25 日（土）												
主題	大学職員の可能性 を広げよう — 大学のグローバル化を牽引する職員を目指して（第 2 回） —												
対象	これからの大学を担う若手・中堅、また熱意ある職員（教員を含む）												
	<p>「グローバル化政策」をどのように構築するかが問われている。キャンパスの中で学生に直に接している職員の役割は重要である。海外での学生リクルート活動やプログラム開拓における職員の役割も大きなものがある。</p> <p>早稲田大学留学センターの眞谷国光氏に基調講演をお願いし、具体的な大学グローバル化戦略を考えるワークショップを行った。留学プログラムをどのように企画・立案し、運営していくかは多くの大学で課題となっている。早稲田大学は外国人留学生の迎え入れ数は日本一、また日本人学生の海外派遣数でもトップクラスであり、海外大学と共同の教育プログラムも数多く持っている。眞谷氏からはプログラムの開発や運営面の工夫と課題について聞くことができた。</p> <p>ワークショップでは仮想大学を設定し、具体的なグローバル化戦略を考えた。このワークショップでは参加者の白熱した議論で時間が足りず、予定時間を超えた議論を経て、質の高いプレゼンテーションがあった。</p>												
講師・企画委員	眞谷国光(早稲田大学国際部国際教育企画課兼留学センター・国際プログラムコーディネーター) 近藤清之(法政大学学務部長・入学センター長)* 青木加奈子(高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム)* 岩崎宏政(明治大学社会連携事務室事務長)* 大久保陽造(中央大学入学センター入学企画課課長)* 山本眞一(桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授)*												
定員	40 名												
参加者	27 名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという満足</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという不満</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	85%	どちらかという満足	11%	どちらかという不満	4%	不満	0%	無回答	0%
満足度	割合												
満足	85%												
どちらかという満足	11%												
どちらかという不満	4%												
不満	0%												
無回答	0%												

(注) *印は企画委員

事業名	第3回吉笑ゼミ。												
期日	12月17日（日）												
主題	知る喜び、知られる喜び。												
対象	高校生、大学生、社会人												
趣旨	<p>開館以来、公益財団法人大学セミナーハウスが取り組み続けてきた教育活動の一環として開催するセミナー。大学入学を目前にした高校生や、学部の初年次生に向け、学ぶこと、考えることの楽しさや視点の多様性を体感してもらうために、落語家・立川吉笑とゲスト講師（さまざまな専門分野を持つ研究者等、その道のスペシャリスト）による講義形式ではない新しい形のセミナーを、学びの源である大学を会場に開催する。セミナーでは、ゲスト講師に60分程度専門分野の講義をしていただき、その講義で学んだことをその場で、立川吉笑にレポート提出よろしく落語として提出（披露）していただく。その後、講師と吉笑のトークや参加者との質疑応答でしめくくる。</p> <p>今回は、ヨーロッパでさまざまな建築に触れた経験を活かし、現在日本で活躍している新進気鋭の建築家・光嶋裕介氏を講師に招き、「建築——空間における生命力——」を講義テーマに、京都大学「百周年時計台記念館（国際交流ホール）」で開催された。開催にあたっては公益財団法人大学コンソーシアム京都の後援も得られた。セミナー終了後も高校生から光嶋氏や吉笑氏に質問や相談が続くなど、セミナーの目的である学びの多様性や面白さが十分に伝わった密度の濃いセミナーであった。</p>												
講師	立川吉笑（立川流落語家） 光嶋裕介（建築家）												
定員	180名												
参加者	37名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナーの満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという満足</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>どちらかという不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	53%	どちらかという満足	35%	無回答	12%	不満	0%	どちらかという不満	0%
満足度	割合												
満足	53%												
どちらかという満足	35%												
無回答	12%												
不満	0%												
どちらかという不満	0%												

平成 29 年度事業報告 附属明細書 3 留学生会館入居状況

1. 2018 年 3 月 31 日現在入居状況

学校名	所属			計	性別	
	大学院生 (研究生を含む)	学部生	客員研究員		男	女
首都大学東京	9	1		10	6	4
中央大学	1			1	1	
電気通信大学	1			1	1	
明星大学	1			1		1
合計	12	1		13	8	5

2. 国別留学生数

国名	計	大学院生	学部生	客員研究員
インドネシア	1		1	
エジプト	1	1		
韓国	1	1		
カンボジア	1	1		
中国	6	6		
ベトナム	1	1		
モンゴル	1	1		
ロシア	1	1		

留学生論文コンクールは留学生の日本語による論文作成能力を向上させる機会を提供すると共に、日本留学の成果を発信し、国際相互理解及び国際交流を促進することを目的に平成 21 年度から実施している。今年度は全国 23 大学の留学生（出身国は 6 カ国 1 地域）から 30 作品の応募があり、下記のとおり受賞者 6 名が決定した。

1. 応募作品数：30 作品

2. 応募者内訳

(1) 大学数：23 大学

(2) 国籍：6 か国 1 地域

3. 入賞作品一覧

賞別	氏名	大学名	国籍	論 題
金	林 培芳	神田外語大学	中国	海洋生物の涙 — プラスチックの時代から脱却を—
銀	陶 一然	立命館大学	中国	グローバル社会における高等教育機関の留学生支援
銀	権 慧蘭	熊本大学	韓国	食糧安全保障 — その現状と対策を考える—
銅	沈 家銘	京都大学	中国 台湾	エンパワーメントによる持続可能な開発と世界平和
銅	宋 柏嬌	名古屋大学	中国	温室ガス排出による地球温暖化対策と課題 — 運輸手段の改善と再生可能なエネルギーの開発—
銅	孫 昊	同志社大学	中国	老いていく地球人 — 世界範囲の高齢化とその対策—